原田牧場 Note

page 19

　4月から急な人員不足と身内の不幸で息抜きの暇もなく仕事に明け暮れています。缶詰生活にも慣れてきて、忙しいなりにも昼間90分程度、仕事の合間をやりくりする気分になり、近所の観光牧場の30周年イベントを夫婦でのぞきに行きました。草原の中に休憩できるイスやテーブル、ハンモックやトランポリン、山に向かって飛び出すように揺れる大きなブランコ、子牛と触れ合えるスペースもあって、深呼吸するだけで楽しい空間でした。私たちから見るとただ置いてあるだけの牧草ロールにも、自分なりの遊び方を考えてよじ登っていく子供達、大自然の中だとよりたくましく見え、牧場に親しんでくれているのをとても嬉しく感じました。我が家の牧場見学には足りない遊びの部分、参考にしてもいいかもなあ。と。

　この日はキッチンカーでお昼を食べようと思って行きました。イベントの混雑がわかっている私は、こみいったメニューは頼まない、人の流れとは別のコースで回る習性で動いていました。牧場ミルクのシュークリームは売り切れギリギリに買えたし、焼き置きしてあったたこ焼きもすぐ入手。テーブルも空いていて座って待っていました。夫はというと滅多に出かけないので、出かけた時は嬉しくなってスペシャルメニューを頼みます。私は内心、スペシャルメニューは時間がかかるとわかっているけど、本人が楽しい方がいいと思って黙っています。案の定30分経っても出来上がってきません。通常のホットドッグを注文した人にどんどん抜かされて、朝ごはん抜きで来ているのでお腹が空いて切なくなって…

隣のたこ焼きを買いに行ったけど、30分待ちと言われて諦めていました。やっぱりね…とテーブル席から見ていた私のところへ夫が寄ってきて、ハンバーグドッグはもう諦めるといった表情です。私のたこ焼きを半分あげてイライラをおさめてもらおうと思った時でした。まるいテーブルの向かいに座っていた白髪ロン毛のワイルド紳士が突然「できてこないの？」と聞いてきて「そうなんですよ」と言ったら大笑いしたんです、アッハッハッハー！って。からりと乾いた楽しそうな笑い声で。「30分待っても呼ばれないから、隣のたこ焼きに助けを求めたら、それにもフラれた！」と言ったら、紳士の横にいたお連れの女性も一緒にワハハハハー！って笑う。私も面白くなってきて、ハンバーグドッグの様子聞いてくるわ、って行ってみたらとっくに出来てたわ！で、またワハハハハー！良かったね！って。「お二人が笑ってくれたから、不機嫌にならずに済みました」とお礼を言ったらまた楽しそうに笑っていました。ジブリのアニメでいうと大風が吹いて全然違う世界に突如変わったような、そんな笑い声のパワー。みなさん経験ありますか？親しい人に悩みを話した時に笑い飛ばしてくれた経験はあると思いますが、全然知らない人が、ただ笑い声で空気を変えてくれたのは初めて！キッチンカーの悪口を言わずに済んだし、久しぶりのおでかけがキラキラしたのでした。
あとでわかったのですが、お二人は、紳士がギター、女性がボーカルのデュオミュージシャンで、午後からのステージのために来ていたそうです。その名もHearts　福の神のような笑い声のお二人の歌と演奏、いつか聴いてみたいです。

筆者　原田　希

1973年　大阪府吹田市生まれ
2006年　酪農家との結婚を機に北海道標茶町へ
2017年　北海道農業士に認定
北海道指導農業士の夫ともに新規就農者の支援や女性農業者向けの勉強会のお世話係を担当